

付属資料・目次

特記仕様書（抜粋）	特 1
現場説明付記事項・案内図・構内配置図	1
ピット伏図（改修前後）	2
1階平面図（改修前後）	3
2階平面図（改修前後）	4
3階平面図（改修前後）	5
4階平面図（改修前後）	6
5階平面図（改修前後）	7
屋上階平面図（改修前後）	8
外構平面図（改修前）	9
外構平面図（改修後）	1 0
立面図(1)（改修前後）	1 1
立面図(2)（改修前後）	1 2
立面図(3)（改修前後）	1 3

電 気 設 備 工 事 特 記 仕 様 書						
京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）等改修その他電気設備工事						
Ⅰ 工 事 概 要						
1. 工事場所		京都府京都市左京区吉田橋町（京都大学医学部構内）				
2. 完成期限		令和9年3月31日（水曜日）				
		ただし、財政法の定めによる承認を得た場合は、令和9年7月16日（金曜日）				
		まで延長する予定である。				
3. 建物概要						
建 物 名 称		医学部C棟	管理棟	医学部D棟		
工 種		模様替	模様替	模様替		
構 造		RC造	RC造	RC造		
階 数		地上5階	地上2階	地上5階 地下1階		
建築基準法による	建築面積(㎡)	893	837	820.19		
	延べ面積(㎡)	3,854	1,459	4,805.67		
消防法施行令別表第一の区分		(7)	(7)	(7)		
改 修 面 積 (㎡)		3,854	-	-		
4. 工事種目（●印の付いたものが対象工事種目）						
建物別及び屋外		工 事 種 別				
工 事 種 目	医学部C棟	管理棟	医学部D棟	屋外		
● 電灯設備	一 式					
● 動力設備	一 式					
○ 電気自動車用充電設備						
○ 電熱設備						
● 雷保護設備	一 式					
● 受変電設備	一 式		一 式			
○ 電力貯蔵設備						
● 発電設備	一 式					
● 構内情報通信網設備	一 式					
● 構内交換設備	一 式					
○ 情報表示設備						
○ 映像・音響設備						
○ 拡声設備						
● 誘導支援設備	一 式					
○ テレビ共同受信設備						
● 監視カメラ設備	一 式					
○ 駐車場管制設備						
● 防犯・入退室管理設備	一 式					
● 火災報知設備	一 式	一 式				
● 中央監視制御設備	一 式					
● 集中検針設備	一 式					
● 構内配電線路				一 式		
● 構内通信線路				一 式		
○ テレビ電波障害防除						
Ⅱ 工 事 仕 様						
1. 共通仕様						
(1) 文部科学省発注工事請負等契約規則（文部科学省訓令第二十二号）別記第1号の工事請負契約基準、現場説明書、図面 枚及び本特記仕様書 枚によるほか、●印の付いたものを適用する。						
● 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和7年版)(以下「標準仕様書」という。)						
● 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和7年版)(以下「改修標準仕様書」という。)						
● 公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和7年版)(以下「標準図」という。)						
● 工事写真撮影要領(令和5年9月)						
● 施工条件 ・ 本工事建物周囲には、研究棟や住宅等が立地することを十分認識し、周辺への影響に配慮すると共に、安全にも十分配慮すること。						
(第1編1.3.3)・工事用地および工事用地周辺において適切な養生・清掃を行うこと。また、工事車両の搬出入時などに						
[第1編1.3.3]周辺道路等を汚損、破損等した場合は速やかに対応すること。						
・騒音・振動・粉塵の発生する作業は、低騒音・低振動・低粉塵工法を採用すること。						
・臭気の発生する作業は、周囲に対して影響が少ない工法を採用すること。						
・学校行事・近隣地区行事を考慮して工事計画を立てること。						
その他、学内行事等による作業の中止については、監督職員と協議すること。						
・工事車両の通行は交通整理員を配置する等、安全対策を講ずること。						
・その他建物内や敷地周囲に影響があると思われる作業については、監督職員と協議を行い進めること。						
・工事用地内の環境美化（草刈り等）に努めること。						
・構内実施中、又は実施が決定した他工事の業者と連絡調整を密に行い、安全かつ円滑な工事の実施に努めること。						
・停電作業日については、監督職員と協議して決定するものとする。						

現場說明付記事項

1 工事施工上の注意事項

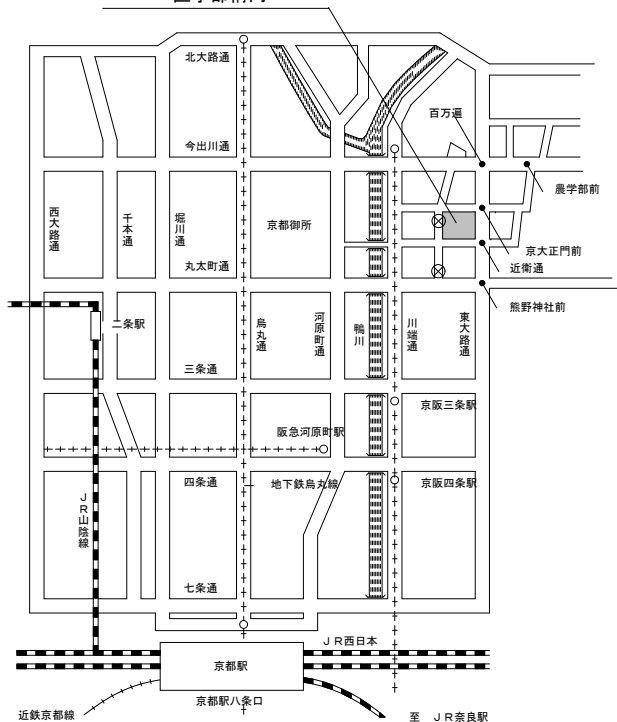
- 1) 車両通行経路は、図示の通りとし監督職員と協議の上、誘導員等を配置し、交通整理を行うこと。
- 2) 工事車両は周辺道路路上での違法駐車は行わないようにし、また路上に縦列待機させることも行わないこと。
- 3) 工事用地は図示の範囲とし、危険防止のため関係者以外の出入ができないようにすること。また、工事関係車両（運送車両を含む）は工事用地内に駐車することを原則とし、構内の駐車エリア、道路及び空地への駐車は行わないこと。
- 4) 学校行事・近隣地区の行事を考慮して工事計画を立てること。
以下の日程は試験及び行事予定日のため、作業中止日として、工事の計画を立てること。
 - ・令和8年1月12月0日、1月21日、1月22日、1月23日 （1月1祭）
 - ・令和8年12月12日 （特色入試）
 - ・令和9年1月16日、1月17日 （大学共通テスト）
 - ・令和9年1月23日、1月24日 （適試験）
 - ・令和9年2月25日、2月26日 （一般入試）その他、学内の試験等による作業の中止については、監督職員と協議すること。
- 4) 撤去工事その他で大きな音、振動等が生じる場合は、あらかじめ監督職員に日時を連絡し、承諾を得て工事を進めると。また、施工中の防音対策を十分に検討し行うこと。
- 5) 教職員、学生等の通行が頻繁なため、構内車両通行には徐行の徹底等、十分注意するよう指導を行うこと。
- 6) 埋蔵文化財を発見した時は、ただちに工事中止し、監督職員の指示を受けること。
- 7) 工事用地内には火災予防のため適切な数量の消火器を設置するとともに、工事関係者に対し、火気等の取り扱いに十分注意するよう指導を行うこと。
- 8) 取囲まれた地域中地物を発見した時は、監督職員と協議の上撤去し、適正処分すること。
- 9) 工事用地は、除雪等常に良好な環境を保持すると共に工事完了時に原状に復原して返還すること。
- 10) 同一構内の他工事の業者と連絡調整を密に行い、安全かつ円滑な工事の実施に努めること。
- 11) 作業時間は、午前8時から午後6時を原則として。
- 12) 構内における喫煙については、監督職員と協議のうえ、健康増進法（平成十四年法律第百三号）第二十五条五に基づき受動喫煙対策を講ずること。

2 工事中の構内安全対策について

工事中の構内安全対策については、下記事項を十分留意した上、具体的な安全対策等を立案し、監督職員と協議の上、承諾を受けるものとする。

- 1) 監督職員と協議の上、構内構外に工事予告板、警戒標識板、交通規制標識板、工事表示板、案内板等を設置し、常に良好な状態に保つこと。
- 2) 掘削時等で危険な状態となる箇所には、安全標、工事中表示板（点滅灯付）を、夜間は保安灯及び赤色回転灯を設置し、安全な状態を確保すること。
- 3) 構内通路の安全及び騒音防止のため工事用車両は徐行すること。
- 4) 大型車両の構内通過に際し、地味塗料、マンホール等は必ず必要に養生を行うこと。
- 5) 大型車両により作業の場場合は必要に応じて交通安全員を追加増員し、誘導・交通整理等により構内の安全確保に努めること。
- 6) 仮面の設置に伴い、構内通路の視認性が確保できない場合は、常夜灯及びコーナ部に透明パネルを設置するなど安全確保に努めること。
- 7) パネルゲートには電子音つき回転灯を設置するなど事故防止に努めること。

医学部構内



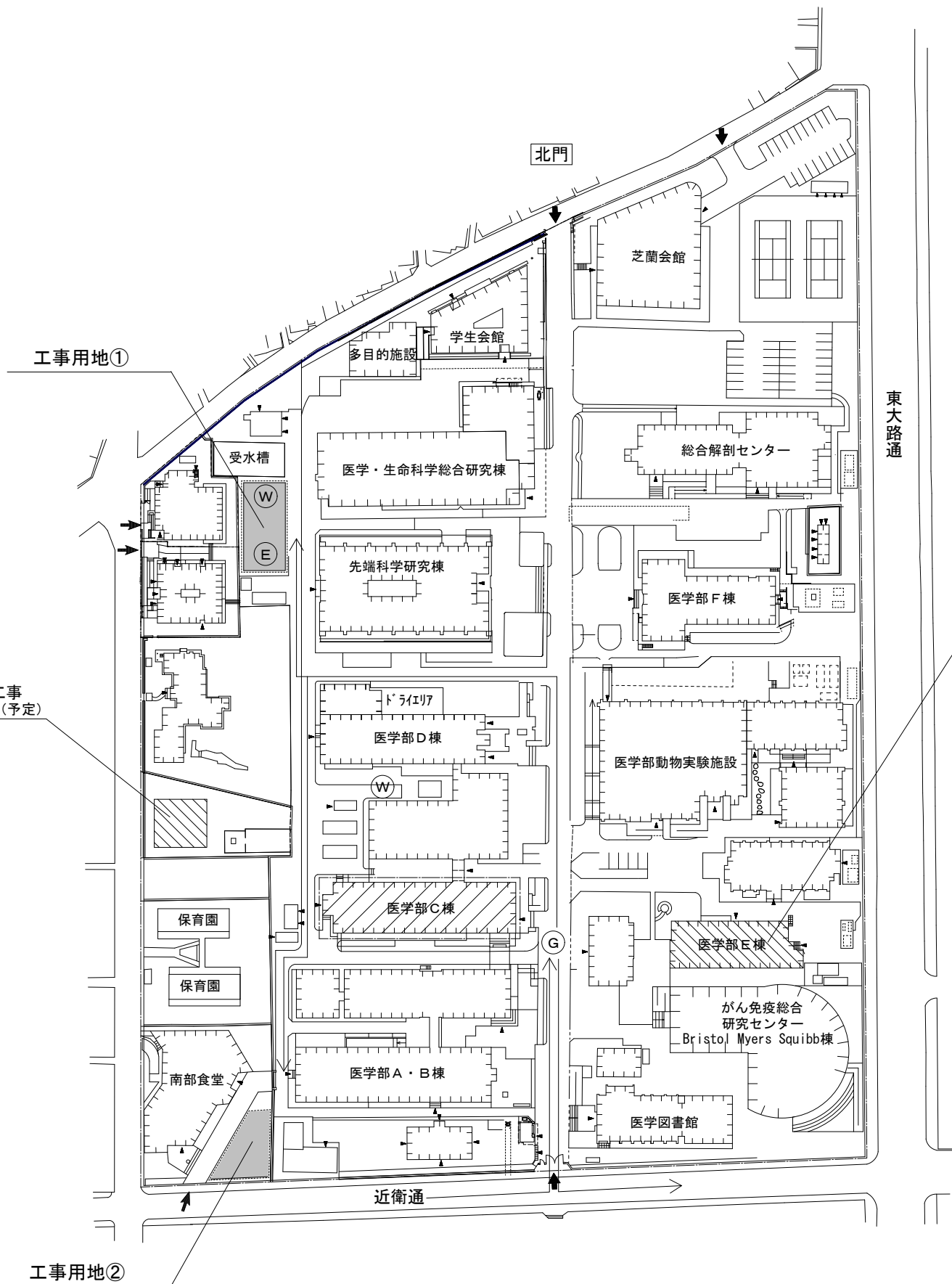
案内図

宿泊施設新営工事
R8.3月～R9.7月（予定）

工事用地①

工事用地②

構内配置図 (S=1/850)



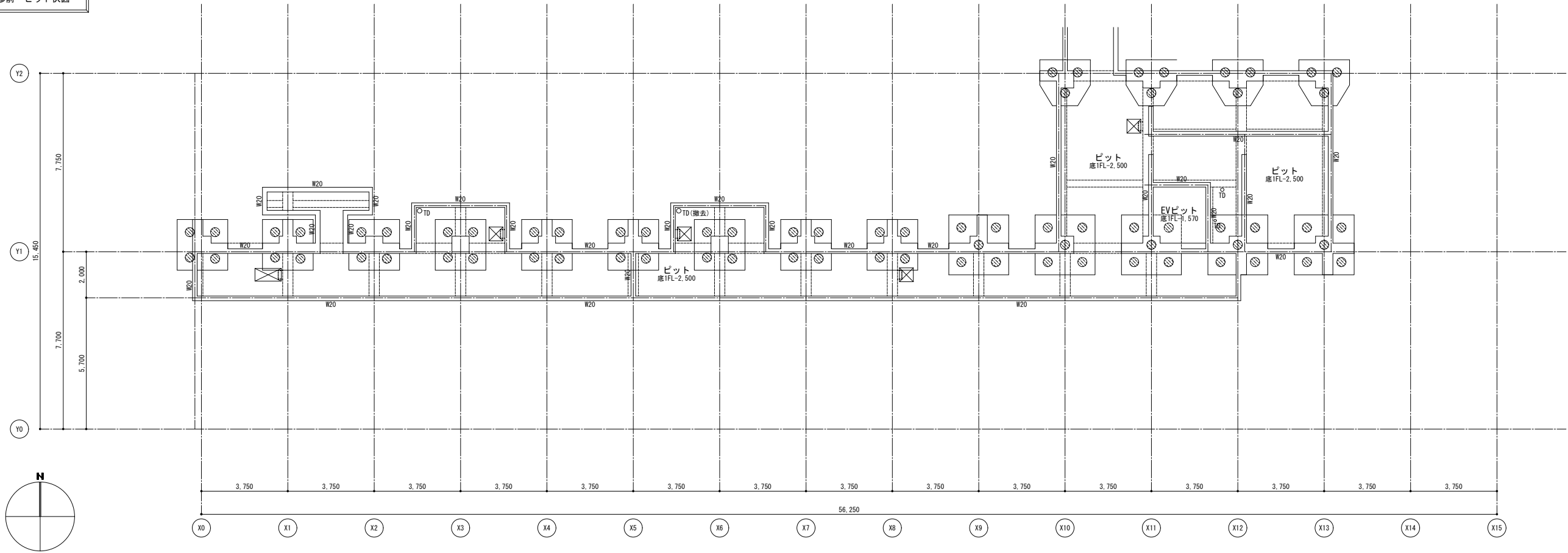
医学部E棟とりこわし工事
R8.10月～R9.1月（予定）

凡 例

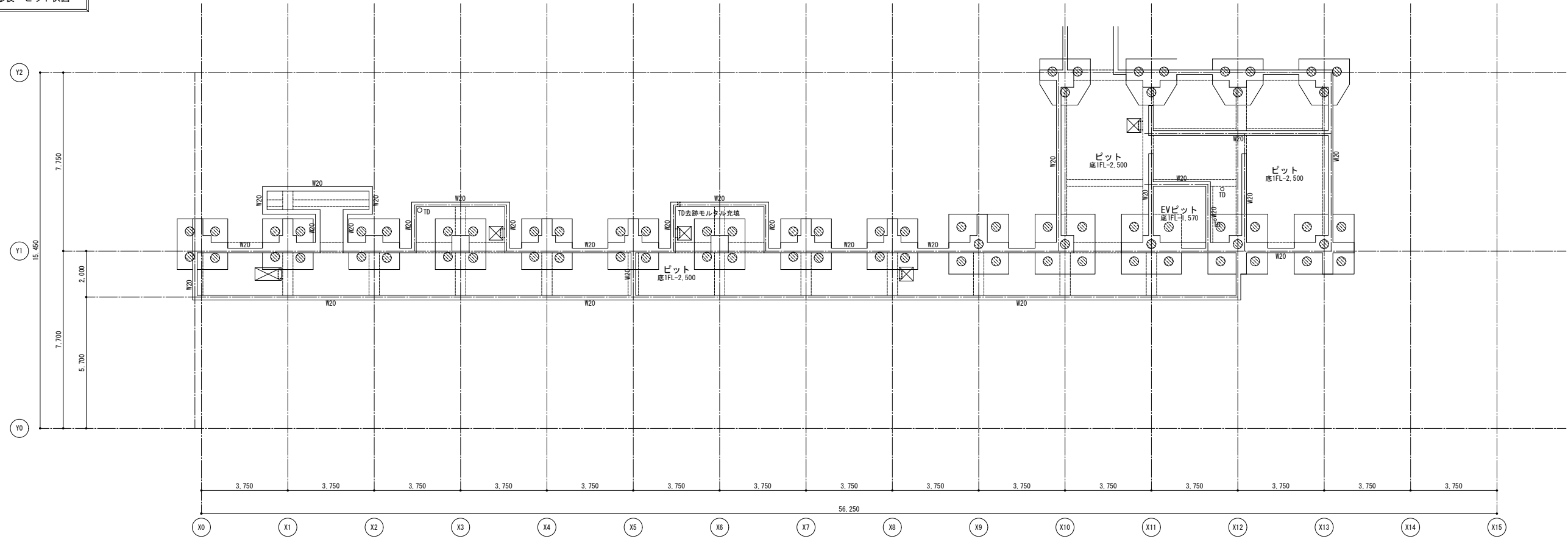
記 号	内 容
	本工事建物
	別途工事
	工事用地 592.2㎡ (工事用地① 352.2㎡ + 工事用地② 240㎡)
	工事用車両進入経路
	ネットフェンス (H=1.8m)
	枠組足場
	建物出入口
	交通誘導員 (大型車両搬出入時)
	水道分岐位置
	電力分岐位置

工事名	京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）等改修その他電気設備工事		図面番号 1
図面名称	縮尺 図示	設計日 令和8年7月	

改修前 ビット伏図

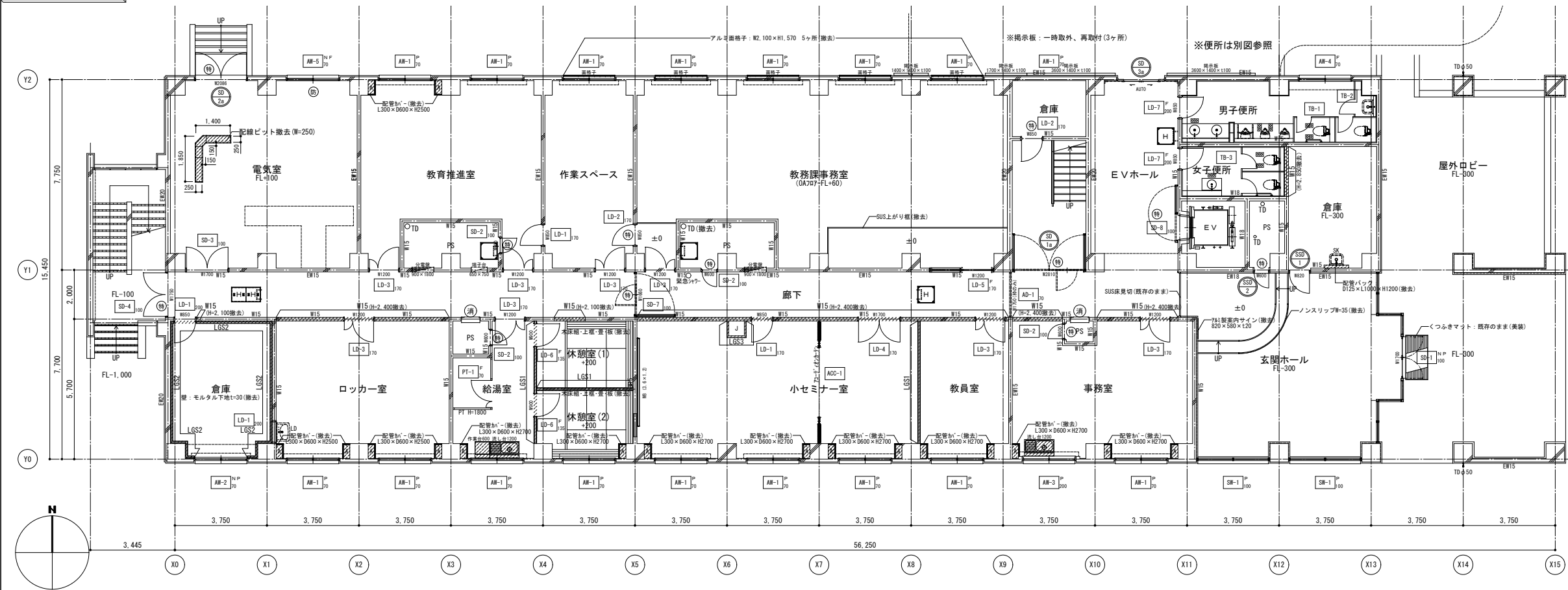


改修後 ビット伏図

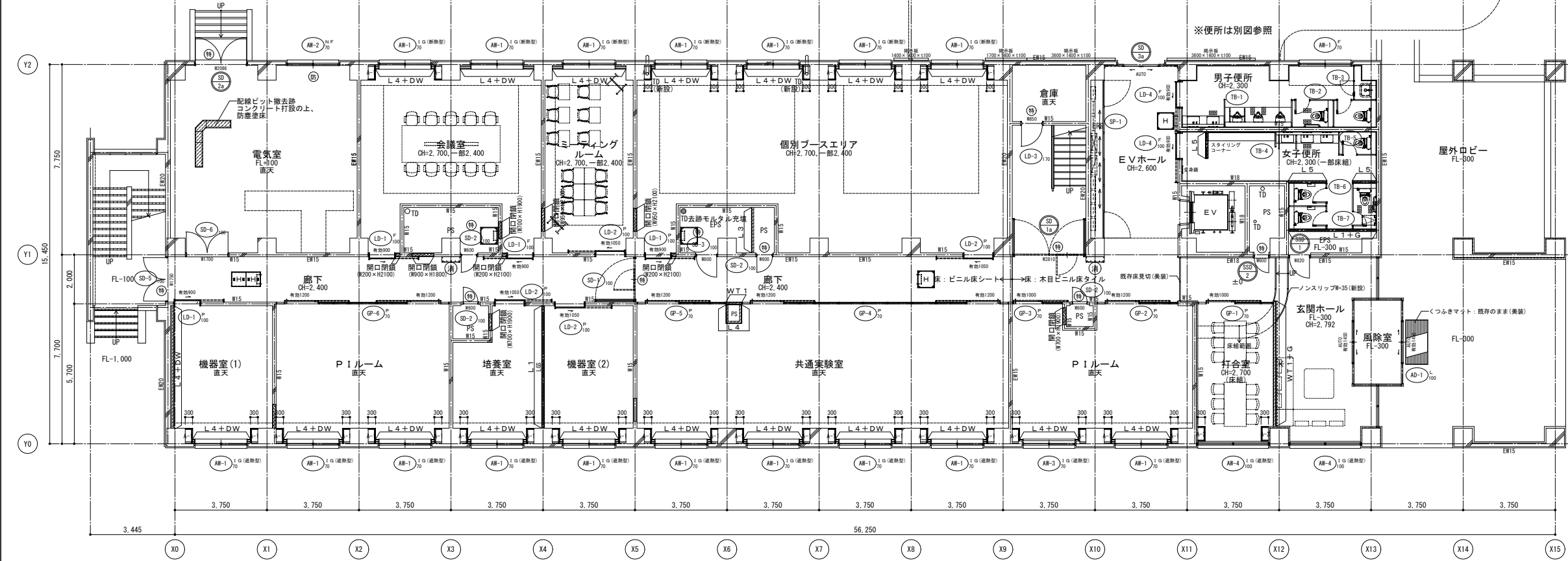


工事名 京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）等改修その他電気設備工事			図面番号 2
図面名称 ビット伏図（改修前後）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	設計日 令和8年7月	

改修前 1階平面図



改修後 1階平面図



撤去 凡例

RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
ALCはALCパネルt=100+GL (工法)を示す。
仕上撤去範囲を示す。
部分撤去範囲を示す。
の範囲は工事範囲外を示す。

間仕切壁、部分 撤去範囲を示す。
(WOOは壁厚を示す。)
(LGS1: 8B-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
(LGS2: 8B-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
(LGS3: 8B-Rt=12片面、天井まで示す。)
(ALG: ALCパネルt=100+GB-Rt=12 (工法)、357'又は梁下まで示す。)
※PS内側はALC素地とする。
撤去建具を示す。
(○は特見込を示す。)

各室1ヶ所 撤去 サイン (L200×H 80×アクリルt=5突出)
各便所1ヶ所 撤去 ビックサイン (L200×H200×アクリルt=5平付)
※配管・ダクト類及び配線等の撤去は設備工事とする。
※手洗い・洗面器等衛生陶器撤去は機械設備工事とする。

- ※注記 明示のない限り下記による。(各階共通)
- ・アスベスト混入のある材料は関係法令に従い、適正に処理する。
(床: ビニル床タイル、天井: 石膏板)
 - ・家具類、間仕切などの撤去跡はモルタルにて補修する。
厚さが30以上になる場合は、ラス下地とする。
 - ・撤去の際、見え掛り残存部となる部分はカッター切り後、撤去する。
 - ・既存部分への損傷は少なくすること。なお損傷が生じた場合は現状復旧のこと。
 - ・天井仕上撤去 (張り縁付) は、特記なき限り下地共とする。
 - ・塗装仕上の塗り替えは既存下地補修のこと。
 - ・工事中、本工事範囲外の部分に汚損を生じた場合は原形に復旧すること。
 - ・壁付、天井付備品で不要なもの (サイン・カーテンレール及びカーテンボックス等) は、本工事で撤去すること。
 - ・ドラフトチャージャー・実験台・ダクト類、手洗等衛生機器などの撤去跡の補修は本工事を含む。
 - ・撤去後は清掃のこと。

計器等 撤去リスト						サイズ		
階数	部屋名	品名	特記事項 (その他)	数量	W	D	H	
1	給湯室	流し台	水切付	1	1200	550	800	
1	給湯室	作業台	水切付	1	800	550	630	
1	小机付室	机付付	壁付	1	3600	100	1200	
1	事務室	流し台		1	1200	550	800	
1	教務課事務室	面格子	外壁取付	5	2100	20	1570	

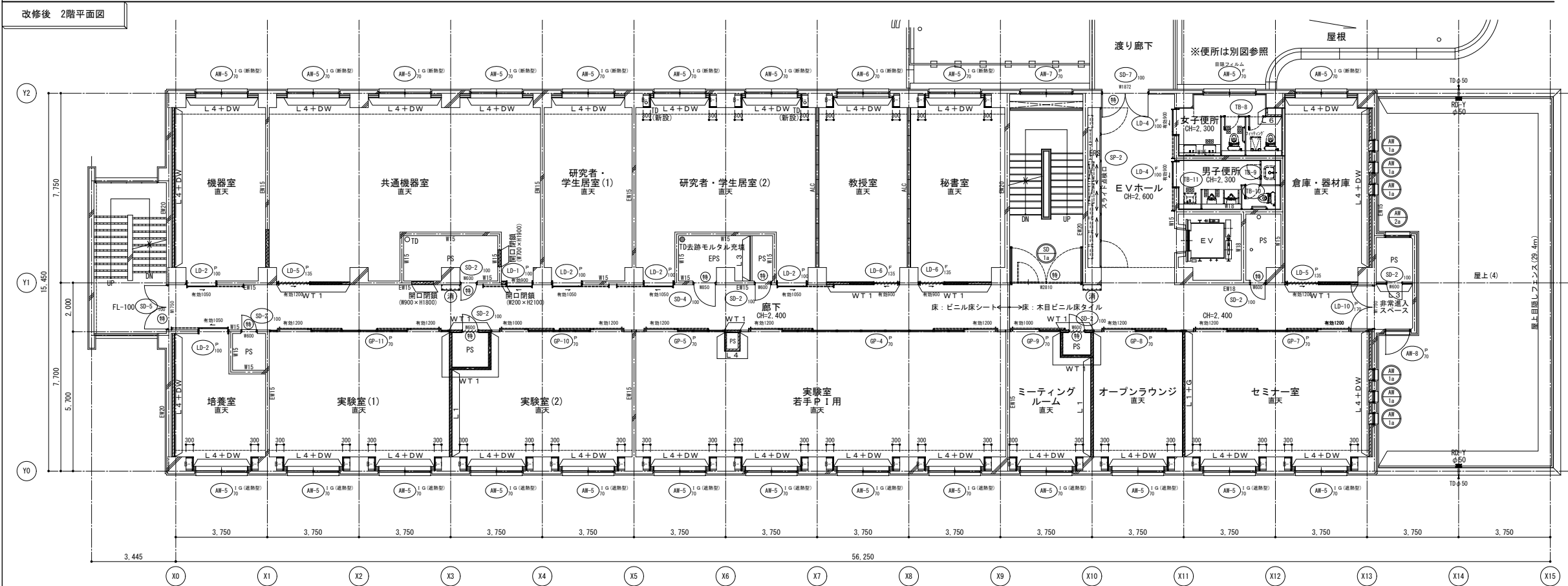
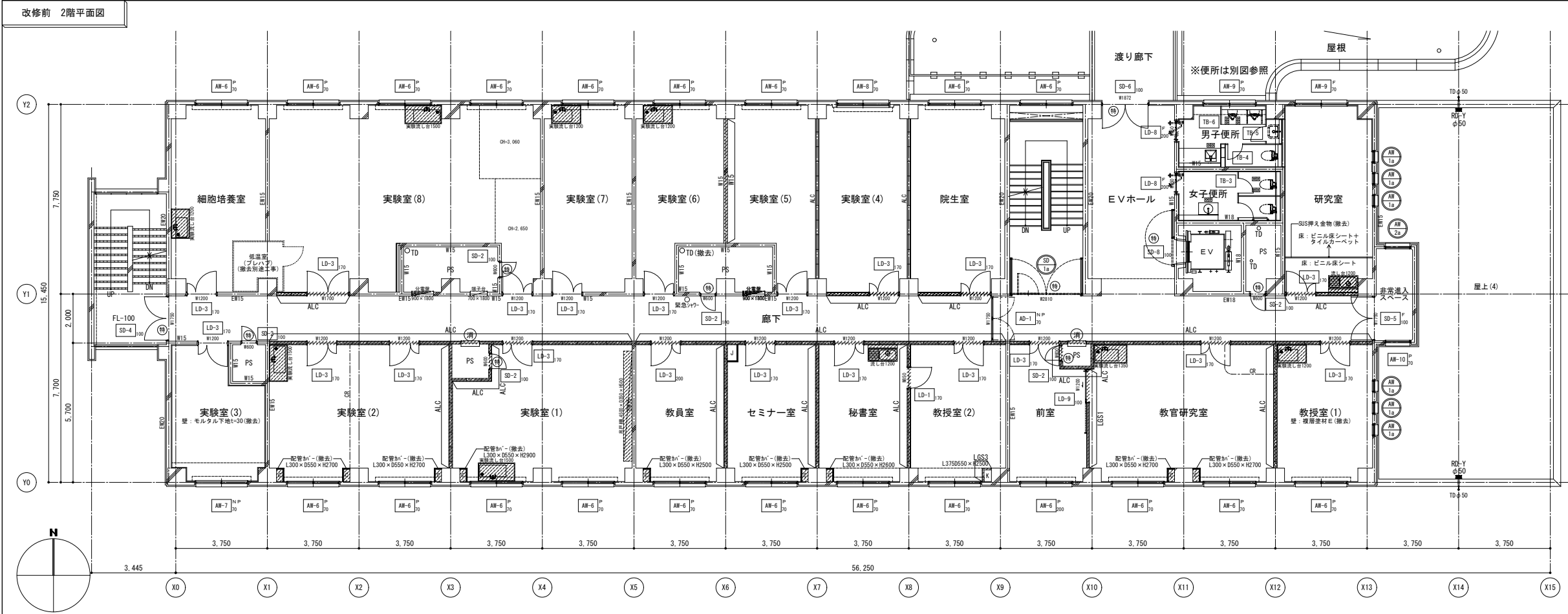
凡例 記号	壁種 凡例
WB	白磁 () は W×H の大きさを示す。 WT 1 防火区画耐火壁 (1 時間耐火) LGS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、357' 下まで)
H	床下点検口 (600×600、600×1 200) ※ (仕上のみ撤去・新設) 枠は清掃
CR	カーテンレール (撤去・新設) H は高さを示す。 L 2 LGS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、天井まで)
OA	フリーアクセスフロアー H は高さを示す。 L 3 LGS+GB-Rt=9.5+GB-Rt=12.5 (片面、357' 下まで)
HB: ○	配管バック: 片面・両面は側面の仕上を示す。 ※新規LDにLは120×H1 100とする。 L 4 LGS+GB-Rt=9.5+GB-Rt=12.5 (片面、天井まで)
LD	洗面化粧台 (設備工事) L 5 LGS+GB-Rt=12.5+化粧台/鏡板t=6 (両面、天井まで)
消	屋内消火栓 (設備工事) L 6 LGS+GB-Rt=12.5+化粧台/鏡板t=6 (片面、天井まで)
木	壁: 木調シート貼付 (天井まで) W15 コンクリート壁 (数値は厚み)を示す。
	既存ALCパネルt=100を示す。 GB-Rt12 (工法) 両面は下地調整の上、仕上とする。 ALO+Gは、グラスウールt=50 (24K) 充填とする。
RD-T	たて引き用ルーフレッド (既存のまま、美装) 特記なき開口閉鎖はWT 1としスタッフはチドリ配置とし、グラスウールt=50 (24K) 充填とする。
RD-Y	よこ引き用ルーフレッド (既存のまま、美装) 壁: 現場発泡断熱ウレタンフォーム吹付t=50 最上階スラブ: 既存フォームポリスチレンt=25付 特記なきは100とする。(建物内は防塵材)
TD	壁種: 配管用鋼管 (径は図示による) 特記なきは100とする。(建物内は防塵材)
特	特定防火設備 (常時閉鎖式) E 電気錠
特 S	特定防火設備 (常時開放・煙感知連動自動閉鎖31+なし) ▼ 「非常用出入口に代わる窓」の標示
防	防火設備 (ガラリはFD付) 回 点字紙を示す。(撤去・新設)

改修 凡例

RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
改修範囲を示す。
部分改修範囲を示す。
の範囲は工事範囲外を示す。
間仕切壁、部分 新設範囲を示す。
(LOは壁種別を示す。)

新設建具を示す。
(*はガラス種別、○は特見込を示す。)*特記なきは建具表による。
既存建具改修を示す。
点線は、別途工事を示す。

※手洗い・洗面器等衛生陶器新設は機械設備工事とする。
(排水コア抜き共)



撤去 凡 例

	RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
	L.C.はALCパネルt=100+GL (工法)を示す。)
	：仕上撤去範囲を示す。
	：部分撤去範囲を示す。
	：の範囲は工事範囲外を示す。
	：間仕切壁、部分 撤去範囲を示す。 (WOは壁種別を示す。)
	(LGS1: GB-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
	(LGS2: GB-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
	(LGS3: GB-Rt=12片面、天井まで示す。)
	(ALC: ALCパネルt=100+GB-Rt12 (GL工法)、天井又は梁下まで示す。)
	※PS内側はALC黒地とする。
	：撤去建具を示す。 (Oは特見込を示す。)

各室1ヶ所：撤去 サイン (L200×H 80×アクリルt=5突出)
各便所1ヶ所：撤去 ビクトサイン (L200×H200×アクリルt=5平付)
※配管・ダクト類及び配線等の撤去は設備工事とする。
※手洗い・洗面器等衛生陶器撤去は機械設備工事とする。

什器等 撤去リスト

間数	部屋名	品名	特記事項 (その他)	数量	サイズ		
					W	D	H
2	細胞培養室	実験流し台		1	1200	750	800
2	実験室(8)	実験流し台		1	1500	750	800
2	実験室(7)	実験流し台		1	1200	750	800
2	実験室(6)	実験流し台		1	1200	750	800
2	実験室(2)	実験流し台		1	1500	750	800
2	実験室(1)	実験流し台		1	1500	750	800
2	実験室(1)	吊戸棚		1	4500	350	500
2	秘書室	流し台	水切付	1	1200	550	800
2	教官研究室	実験流し台		1	1350	750	800
2	教授室	実験流し台		1	1200	750	800

凡例	記号	壁種	凡例
WB	白紙 ()はW×Hの大きさを示す。 (撤去)	WT	防火区画耐火壁 (1時間耐火) GB-F=t=12.5+GB-F=t=12.5 (両面、天井下まで)
H	床下点検口 (600×600、600×1,200) ※(仕上のみ撤去・新設)時は清掃	L	LGS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、天井下まで)
CR	カーテンレール(撤去・新設)	L	LGS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、天井面まで)
OA	フリーアクセスフロアー Hは高さを示す。	L	LGS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (片面、天井下まで)
HB：○	配管パック：片面・両面は側面の仕上を示す。 ※新規LDには1720×H1,100とする。	L	LGS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (片面、天井面まで)
LD	洗面化粧台(設備工事)	L	LGS+GB-Rt=12.5+化粧材t=6 (両面、天井面まで)
消	屋内消火栓(設備工事)	L	LGS+GB-Rt=12.5+化粧材t=6 (片面、天井面まで)
木	壁：木調シート貼り (天井面まで)	W15	コンクリート壁(数値は厚み)を示す。
		ALC	既存ALCパネルt=100を示す。 GB-Rt12(GL工法)両面は下地調整の上、仕上とする。
		開口閉鎖	LO+Gは、ガラスウールt=50(24K)充填とする。 特記なき開口閉鎖はWT1とスリットはチドリ配置とし、 ガラスウールt=50(24K)充填とする。
RD-T	たて引き用ルーフトレン(既存のまま、美装)		
RD-Y	よこ引き用ルーフトレン(既存のまま、美装)	DW	壁：現場発泡体質ウレタンフォーム吹付t=50 最上階スラブ：既存フォームポリスチレンt=25打込 (アンカー撤去跡等はウレタンフォーム吹付にて補修)
TD	壁種：配管用鋼管(径は図示による) 特記なきは100φとする。(建物内は防露材)		
特	特定防火設備(常時閉鎖型)	E	電気錠
特	特定防火設備 (常時開放・煙感知器連動自動閉鎖型はナシ・なし)	▼	「非常用出入口に代わる窓」の標示
防	防火設備(ガラリはFD付)	□	点字板を示す。(撤去・新設)

改 修 凡 例

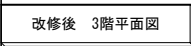
	RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
	：改修範囲を示す。
	：部分改修範囲を示す。
	：の範囲は工事範囲外を示す。
	：間仕切壁、部分 新設範囲を示す。 (LOは壁種別を示す。)
	：新設建具を示す。 (※はガラス種別、Oは特見込を示す。)
	：既存建具改修を示す。
	：点線は、別途工事を示す。

※手洗い・洗面器等衛生陶器新設は機械設備工事とする。
(排水コア抜き共)

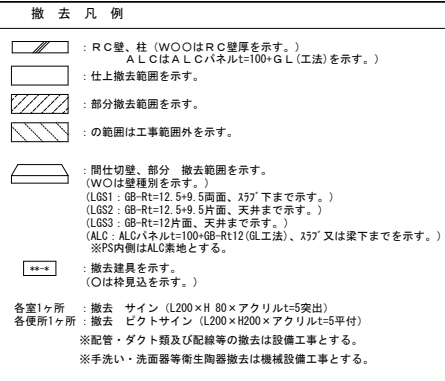
工事名	京都大学 (南部) 総合研究棟 (医学部C棟) 等改修その他電気設備工事		図面番号
図面名称	2階平面図 (改修前後)	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	設計日 令和8年7月

4

改修前 3階平面図



改修後 3階平面図



計器等	搬去リスト	部屋名	品名	特記事項 (その他)	数量	サイズ		
						W	D	H
3	培養室	実験流し台			1	750	750	800
3	実験室(3)	実験流し台			1	1550	750	800
3	実験室(3)	実験流し台			1	1500	600	900
3	実験室(3)	棚	t25×2段		1	3450	400	400
3	実験室(4)	流し台	水切付		1	1200	550	800
3	実験室(5)	実験流し台			1	1500	600	900
3	実験室(5)	棚	t25×2段		1	6740	400	400
3	実験室(8)	流し台	水切付		1	1500	550	800
3	実験室(2)	実験流し台			1	1550	750	800
3	実験室(2)	棚	上段		1	3700	260	t25
3	実験室(2)	棚	下段		1	1100	260	t25
3	研究室(3)	流し台	水切付		1	1050	550	800
3	研究室(3)	約1枚半・ド	壁付		1	900	40	600
3	打合室	流し台	水切付		1	1050	550	850
3	打合室	作業台	水切付		1	600	550	670
3	打合室	約1枚半・ド	壁付		1	2400	100	1200
3	打合室	カリアン・ツタ	スチール		1	2600	150	150
3	研究室(2)	流し台	水切付		1	1200	550	800
3	木製衝立	木製衝立	ジョイント		3000	55	2050	

凡例	記号	壁種	凡例
WB	白紙()はW×Hの大きさを示す。 (数字)	WT	防火区画耐火壁 (1時間防火) $GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5$ (両面、下7'以下)
H	床下点検口(600×600、600×1,200) (仕上のゆみ表・新設) 粉土清掃	L 1.5B	$+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5$ (両面、下7'以下)
C R	カーテンレール(撤去・新設)	L 2.5B	$+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5$ (片面、天井面まで)
OA	フリアーセーフフロア Hは高さを示す。	L 3	$L6S+GB-Rt=9+GB-Rt=12.5$ (片面、下7'以下)
HB: O O	配管(バケツ・片面、両面は側面の仕上を示す。 ※開閉口は1720×1100とする)	L 4	$L6S+GB-Rt=9+GB-Rt=12.5$ (片面、天井面まで)
L D	洗面化粧台(設備工事)	L 5	$L6S+GB-Rt=12.5+化粧(鉄板)t=6$ (両面、天井面まで)
通	屋内消火栓(設備工事)	L 6	$L6S+GB-Rt=12.5+化粧(鉄板)t=6$ (片面、天井面まで)
木	壁: 木調シート貼り (天井面まで)	W15	コンクリート壁(数値は厚み)を示す。
RD-T	下引き用ルーフレッド(既存のまま、美装)	ALC	既存ALC(内寸)100を示す。 GB-Rt12(施工法)両面は下地調整の上、仕上とする。
RD-Y	よこ引き用ルーフレッド(既存のまま、美装)	LD+G	LD+Gは、ガラスウール=50(24K)充填とする。
TD	壁種: 配管用管(径は図示による) 特記必要は100とする。(建物内は防露材)	開口部	特記必要開口部はWTとLとスタッドはナトリ配置とし、 ガラスウール=50(24K)充填とする。
特	特定防火設備 (常時閉鎖式)	E	電気錠
特S	特定防火設備 (常時開放・煙感器連動型自動閉鎖ナリ+なし)	▼	「非常用進入口に代わる窓」の標示
防	防火設備 (ガラスはFD付)	☐	点字板を示す。(撤去・新設)

改修凡例

-  : R壁、柱（WOOはR壁厚を示す。）
-  : 改修範囲を示す。
-  : 部分改修範囲を示す。
-  : の範囲は工事範囲外を示す。
-  : 間仕切壁、部分 新設範囲を示す。
（L〇は壁種別を示す。）
-  : 新設建具を示す。
（※はガラス種別、〇は特見込を示す。）※特記なきは建具表による。
-  : 既存建具改修を示す。
-  : 点線は、別途工事を示す。

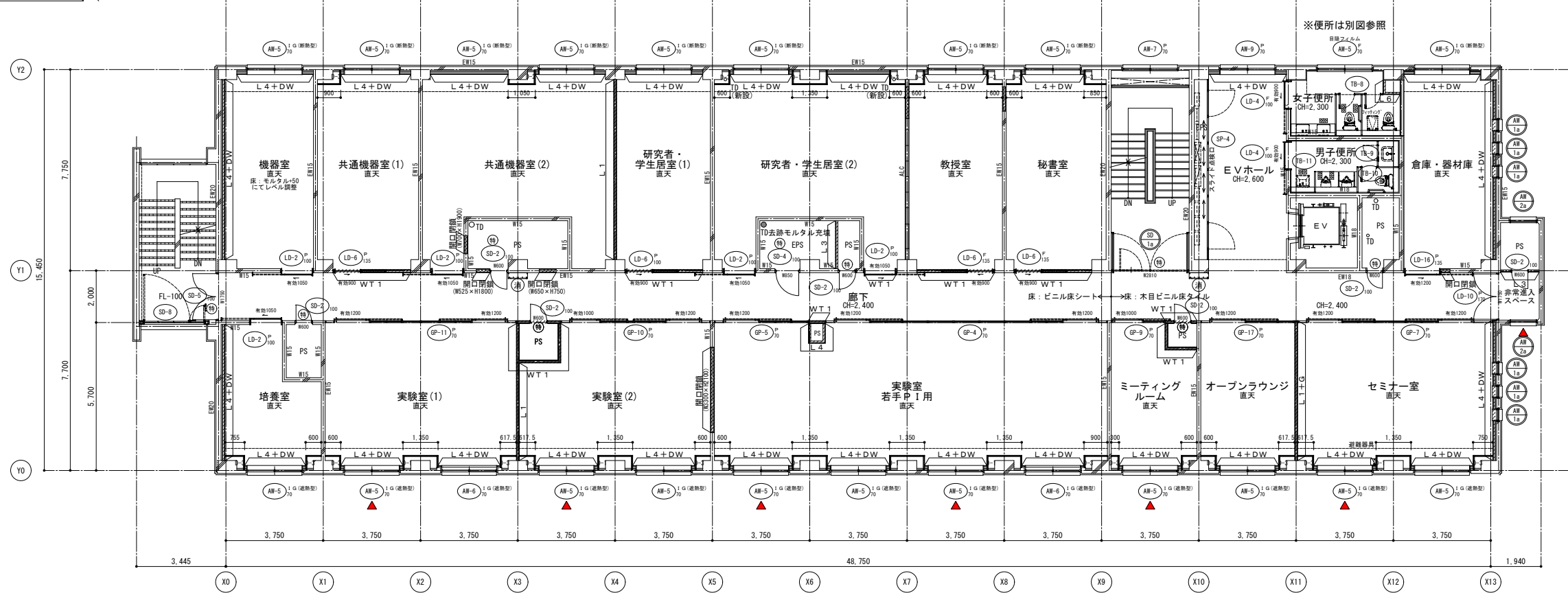
※手洗い、洗面器等衛生陶器新設は機械設備工事とす。
（排水コア抜き共）

工事名 京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）等改修その他電気設備工事		図面番号
図面名称 3階平面図（改修前後）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	設計日 令和8年7月

改修前 4階平面図



改修後 4階平面図



撤去 凡 例

RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
ALCはALCパネルt=100+GL (工法)を示す。)

：仕上撤去範囲を示す。
：部分撤去範囲を示す。
：の範囲は工事範囲外を示す。

：間仕切壁、部分 撤去範囲を示す。
(WOOは壁種別を示す。)
(LGS1: GB-Rt=12.5+9.5片面、ｽﾌﾟﾝ下まで示す。)
(LGS2: GB-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
(LGS3: GB-Rt=12片面、天井まで示す。)
(ALC: ALCパネルt=100+GB-Rt12 (GL工法)、ｽﾌﾟﾝ又は梁下まで示す。)
※PS内側はALC素地とする。

***：撤去建具を示す。
(○は特見込を示す。)

各室1ヶ所：撤去 サイン (L200×H 80×アクリルt=5突出)
各便所1ヶ所：撤去 ビクトサイン (L200×H200×アクリルt=5平付)
※配管・ダクト類及び配線等の撤去は設備工事とする。
※手洗い・洗面器等衛生開閉器撤去は機械設備工事とする。

階数	部屋名	品名	特記事項 (その他)	数量	サイズ		
					W	D	H
4	前室(4)	SUS流し台		1	900	450	830
4	フリーザ室	吊戸棚		1	2700	320	650
4	総機室	実験流し台		1	1500	750	800
4	実験室(1)	実験流し台		1	900	750	800
4	ボスドク 大学院生室	流し台	水切付	1	1200	550	800

凡例、記号	壁種 凡例
WB 白板 ()はW×Hの大きさを示す。 (撤去)	WT LBS防火区画耐火壁 (1時間耐火) (撤去) LBS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、ｽﾌﾟﾝ下まで)
H 床下金枠口 (600×600、600×1,200) ※(仕上のみ撤去・新設) 枠は清掃	L LGS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、ｽﾌﾟﾝ下まで)
C R カーテンレール(撤去・新設)	L LGS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、天井面まで)
O A フリーアクセスフロアー Hは高さを示す。	L LGS+GB-Rt=9.5+GB-Rt=12.5 (片面、ｽﾌﾟﾝ下まで)
H B : O O 配管バック、片面、両面は側面の仕上を示す。 ※新規DにはL720×H1,100とする。	L LGS+GB-Rt=9.5+GB-Rt=12.5 (片面、天井面まで)
L D 洗面化粧台(設備工事)	L LGS+GB-Rt=12.5+化粧t=6 (両面、天井面まで)
消 屋内消火栓(設備工事)	L LGS+GB-Rt=12.5+化粧t=6 (片面、天井面まで)
木 壁：本調シート貼り (天井面まで)	W15 コンクリート壁(数値は厚み)を示す。
	ALC 既存ALCパネルt=100を示す。 GB-Rt12 (GL工法)両面は下地調整の上、仕上とする。
	L O+Gは、ガラスウールt=50 (24K) 充填とする。 開口閉鎖
RD-T たて引き用ルーフトレンドレン(既存のまま、美装)	特記なき開口閉鎖はWT 1としスリットはチドリ配置とし、 ガラスウールt=50 (24K) 充填とする。
RD-Y よこ引き用ルーフトレンドレン(既存のまま、美装)	DW 壁：現場発泡断熱ウレタンフォーム吹付t=50 最上階スラブ下：既存フォームポリスチレンt=25打込 (アンカー撤去跡等はウレタンフォーム吹付にて補修)
TD 壁種：配管用鋼管 (径は図示による) 特記なきは100φとする。(建物内は防露材)	
特 特定防火設備 (常時閉鎖式)	E 電気錠
特 S 特定防火設備 (常時開放・煙感知器連動自動閉鎖t=6なし)	▼ 「非常用進入口に代わる窓」の標示
防 防火設備 (ガラリはFD付)	回 点字板を示す。(撤去・新設)

改 修 凡 例

RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)

：改修範囲を示す。
：部分改修範囲を示す。
：の範囲は工事範囲外を示す。

：間仕切壁、部分 新設範囲を示す。
(L Oは壁種別を示す。)

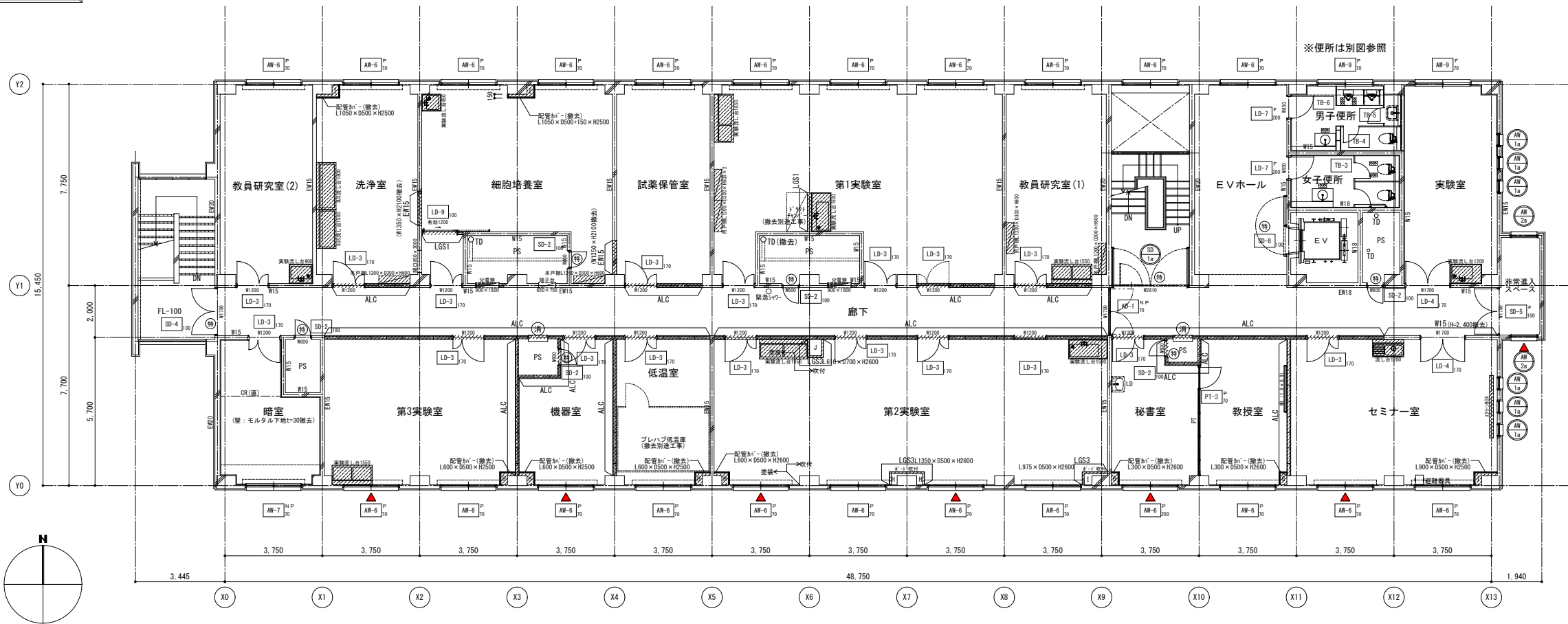
***○：新設建具を示す。
(*はガラス種別、○は特見込を示す。)*特記なきは建具表による。

***：既存建具改修を示す。

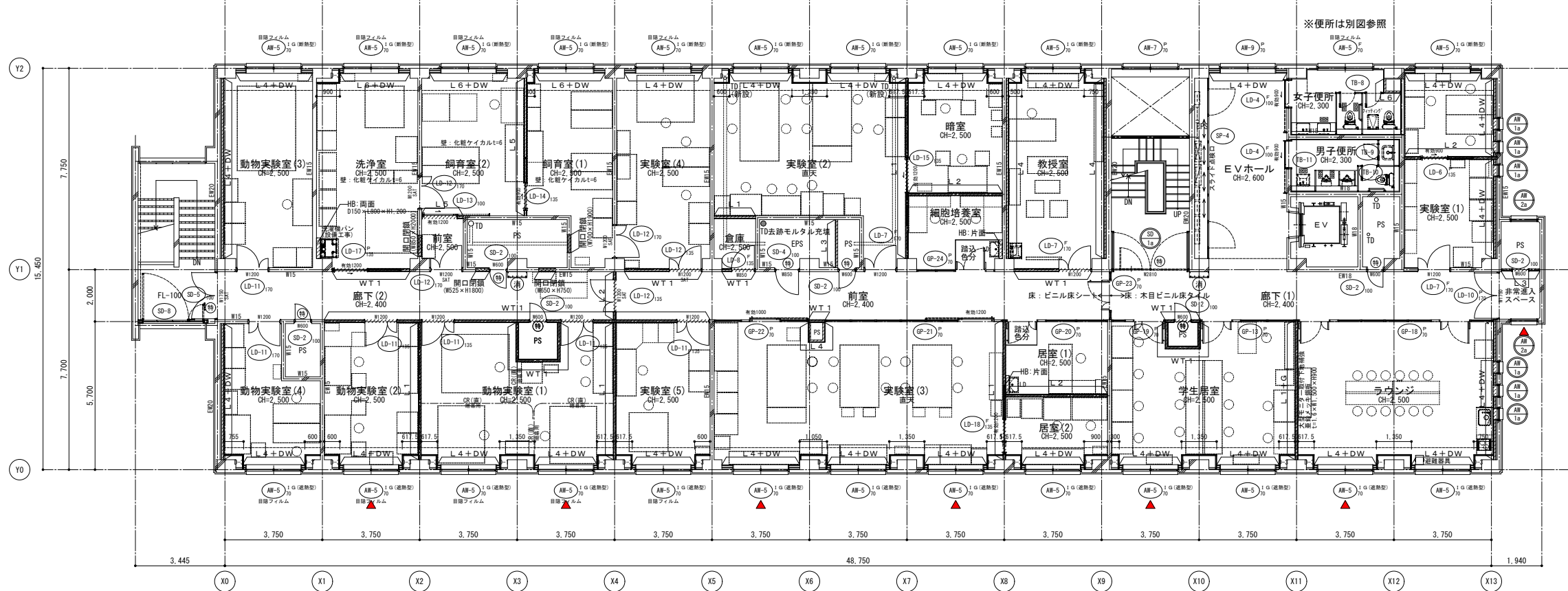
：点線は、別途工事を示す。

※手洗い・洗面器等衛生開閉器新設は機械設備工事とする。
(排水コア抜き共)

改修前 5階平面図



改修後 5階平面図



撤去凡例

RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
ALCはALCパネル100×G L (工法)を示す。)

仕上撤去範囲を示す。

部分撤去範囲を示す。

の範囲は工事範囲外を示す。

間仕切り壁、部分 撤去範囲を示す。
(WOOは壁種別を示す。)
(LGS1: GB-Rt=12.5+9.5両面、337'下まで示す。)
(LGS2: GB-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
(LGS3: GB-Rt=12片面、天井まで示す。)
(ALC: ALCパネル100(壁)Rt12 (GL工法)、337'又は梁下まで示す。)
※PS内側はALC素地とする。

撤去建具を示す。
(○は特見込を示す。)

各室1ヶ所: 撤去 サイン (L200×H 80×アクリルt=5突出)
各便所1ヶ所: 撤去 ビクトサイン (L200×H200×アクリルt=5平付)
※配管・ダクト類及び配線等の撤去は設備工事とする。
※手洗い・洗面器等衛生陶器撤去は機械設備工事とする。

計器等 撤去リスト				サイズ			
階数	部屋名	品名	数量	特記事項 (その他)			
				W	D	H	
5	教員研究室(2)	実験流し台	1	900	750	800	
5	洗浄室	SUS流し台	1	1500	750	600	
5	洗浄室	SUS流し台	1	1800	750	800	
5	洗浄室	吊戸棚	1	1300	300	600	
5	細胞培養室	実験流し台	1	650	750	800	
5	細胞培養室	吊戸棚	1	1200	300	600	
5	第1実験室	実験流し台	1	1850	750	800	
5	第1実験室	実験流し台	1	1500	750	800	
5	第1実験室	吊戸棚	2	1200	300	600	
5	教員研究室(1)	実験流し台	1	1550	750	800	
5	教員研究室(1)	吊戸棚	2	1200	300	600	
5	実験室	実験流し台	1	1200	600	800	
5	第3実験室	実験流し台	1	1550	750	800	
5	第2実験室	実験流し台	1	1850	750	800	
5	第2実験室	実験流し台	1	1500	750	800	
5	教授室	約18'×10'	壁付	1	1800	40	900
5	セミナー室	流し台	水切付	1	1200	550	800
5	セミナー室	スチールボックス	スチール	1	2400	150	150

凡例、記号	壁種 凡例
WB 白板()はW×Hの大きさを示す。 (撤去) 床下全縁口 (600×600、600×1,200) ※(仕上のみ撤去・新設)枠は清掃	WT 1 防火区画面壁 (1時間耐火) LGS+GB-Ft=12.5+GB-Ft=12.5 (両面、337'下まで) L 1 LGS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、337'下まで)
CR カーテンレール(撤去・新設)	L 2 LGS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、天井面まで)
OA フリーアクセスフロア Hは高さを示す。	L 3 LGS+GB-Rt=9.5+GB-Rt=12.5 (片面、337'下まで)
HB:〇〇 配管パック、片面、両面は側面の仕上を示す。 ※新規DにはL720×H1,100とする。	L 4 LGS+GB-Rt=9.5+GB-Rt=12.5 (片面、天井面まで)
LD 洗面化粧台(設備工事)	L 5 LGS+GB-Rt=12.5+化粧材t=6 (両面、天井面まで)
溝 屋内消火栓(設備工事)	L 6 LGS+GB-Rt=12.5+化粧材t=6 (片面、天井面まで)
木 壁: 木調シート貼り (天井面まで)	W15 コンクリート壁(数値は厚み)を示す。
	ALC 既存ALCパネル100を示す。 GB-Rt12 (GL工法)両面は下地調整の上、仕上とする。 L O+Gは、グラスクールt=50(24K)充填とする。
RD-T たて引き用ルーフドレン(既存のまま、美装)	開口閉鎖 特記なき開口閉鎖はWT 1とスリットはチドリ配置とし、グラスクールt=50(24K)充填とする。
RD-Y よこ引き用ルーフドレン(既存のまま、美装)	DW 壁: 現場発泡断熱ウレタンフォーム吹付t=50 最上階スラブ: 既存フォームポリスチレンt=25打込 (アンカー撤去等はウレタンフォーム吹付にて補修)
TD 壁補修: 配管用鋼管 (径は図示による) 特記なきは100φとする。(建物内は防露材)	
特 特定防火設備 (常時閉鎖式)	E 電気錠
特 S 特定防火設備 (常時開放・煙感知器連動自動閉鎖型)なし	▼ 「非常用進入口に代わる窓」の標示
防 防火設備 (ガラリはFD付)	□ 点字版を示す。(撤去・新設)

改修凡例

RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)

改修範囲を示す。

部分改修範囲を示す。

の範囲は工事範囲外を示す。

間仕切り壁、部分 新設範囲を示す。
(L Oは壁種別を示す。)

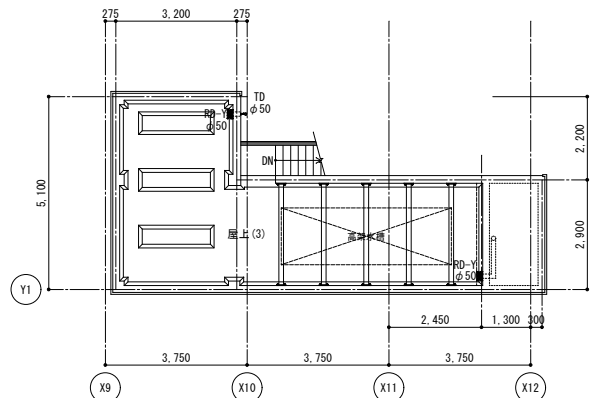
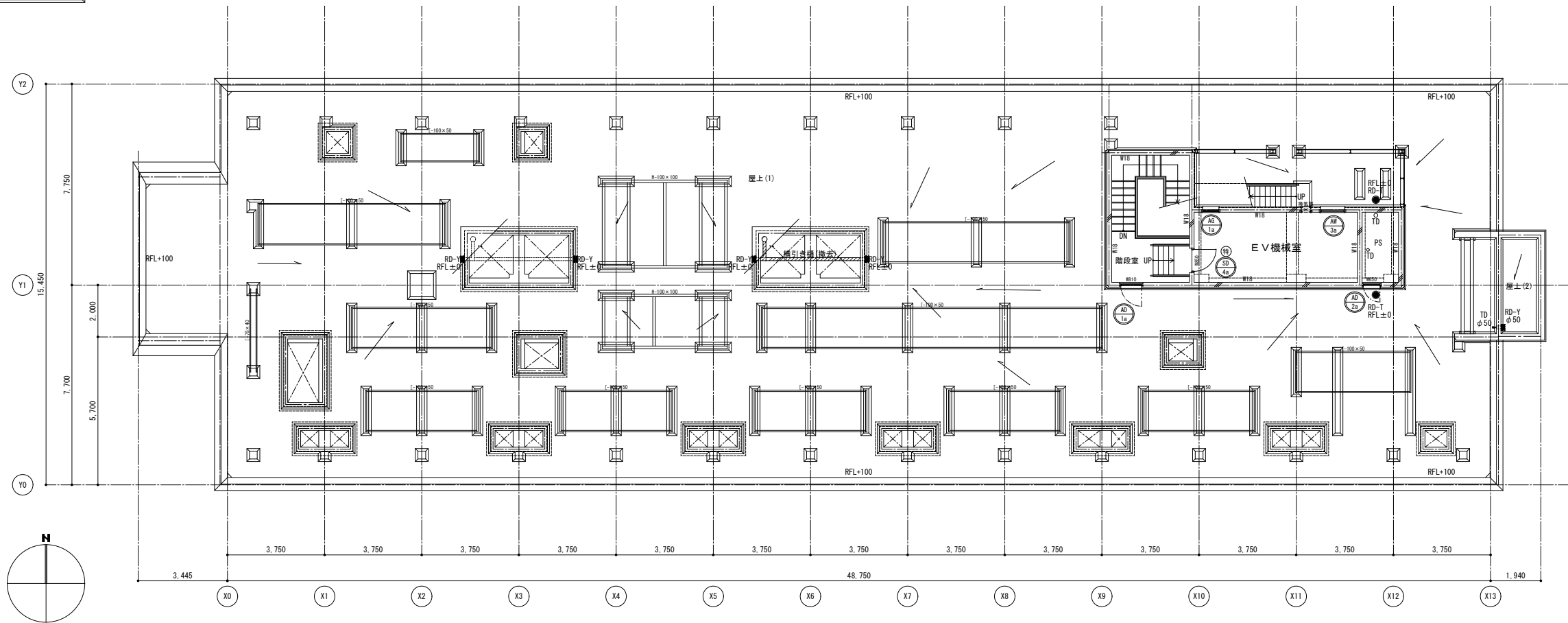
新設建具を示す。
(*はガラス種別、○は特見込を示す。)*特記なきは建具表による。

既存建具改修を示す。

点線は、別途工事を示す。

※手洗い・洗面器等衛生陶器新設は機械設備工事とする。
(排水コア抜き共)

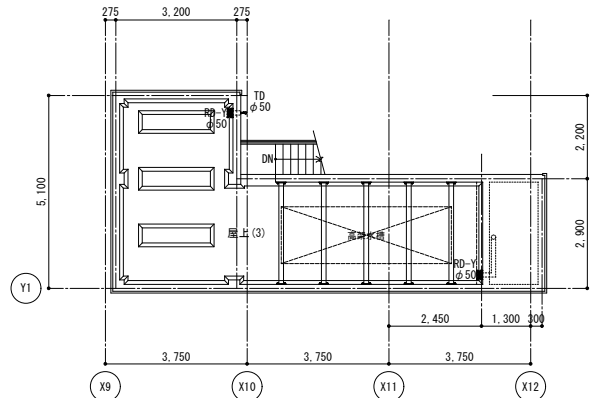
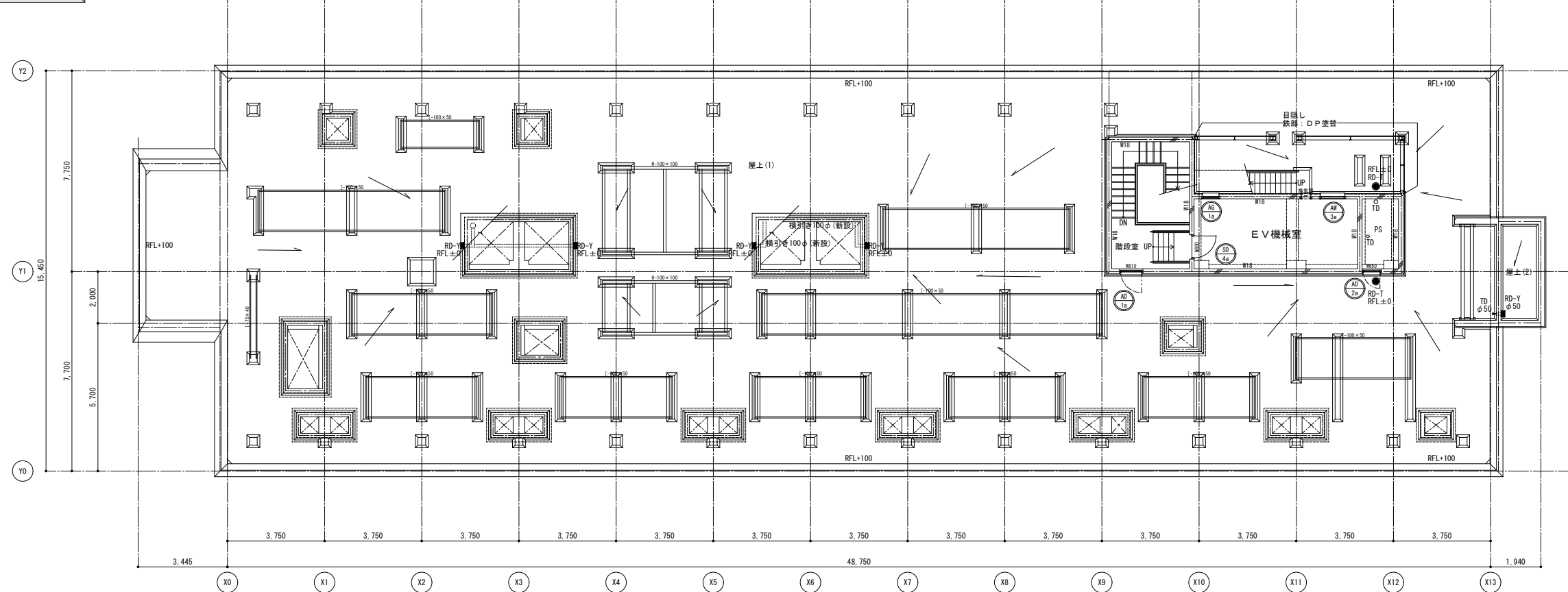
改修前 屋上・PH階平面図



撤去凡例

- RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
- ALCはALCパネルt=100+GL (工法) を示す。
- 仕上撤去範囲を示す。
- 部分撤去範囲を示す。
- の範囲は工事範囲外を示す。
- 間仕切壁、部分 撤去範囲を示す。
(WOOは壁種別を示す。)
- (LGS1: GB-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
- (LGS2: GB-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
- (LGS3: GB-Rt=12片面、天井まで示す。)
- ALG: ALCパネルt=100+GB-Rt12 (GL工法)、天井又は梁下まで示す。)
- ※PS内側はALC黒地とする。
- 撤去建具を示す。
(Oは枠見込を示す。)
- 各室1ヶ所: 撤去 サイン (L200×H 80×アクリルt=5突出)
- 各便所1ヶ所: 撤去 ピクトサイン (L200×H200×アクリルt=5平付)
- ※配管・ダクト類及び配線等の撤去は設備工事とする。
- ※手洗い・洗面器等衛生陶器撤去は機械設備工事とする。

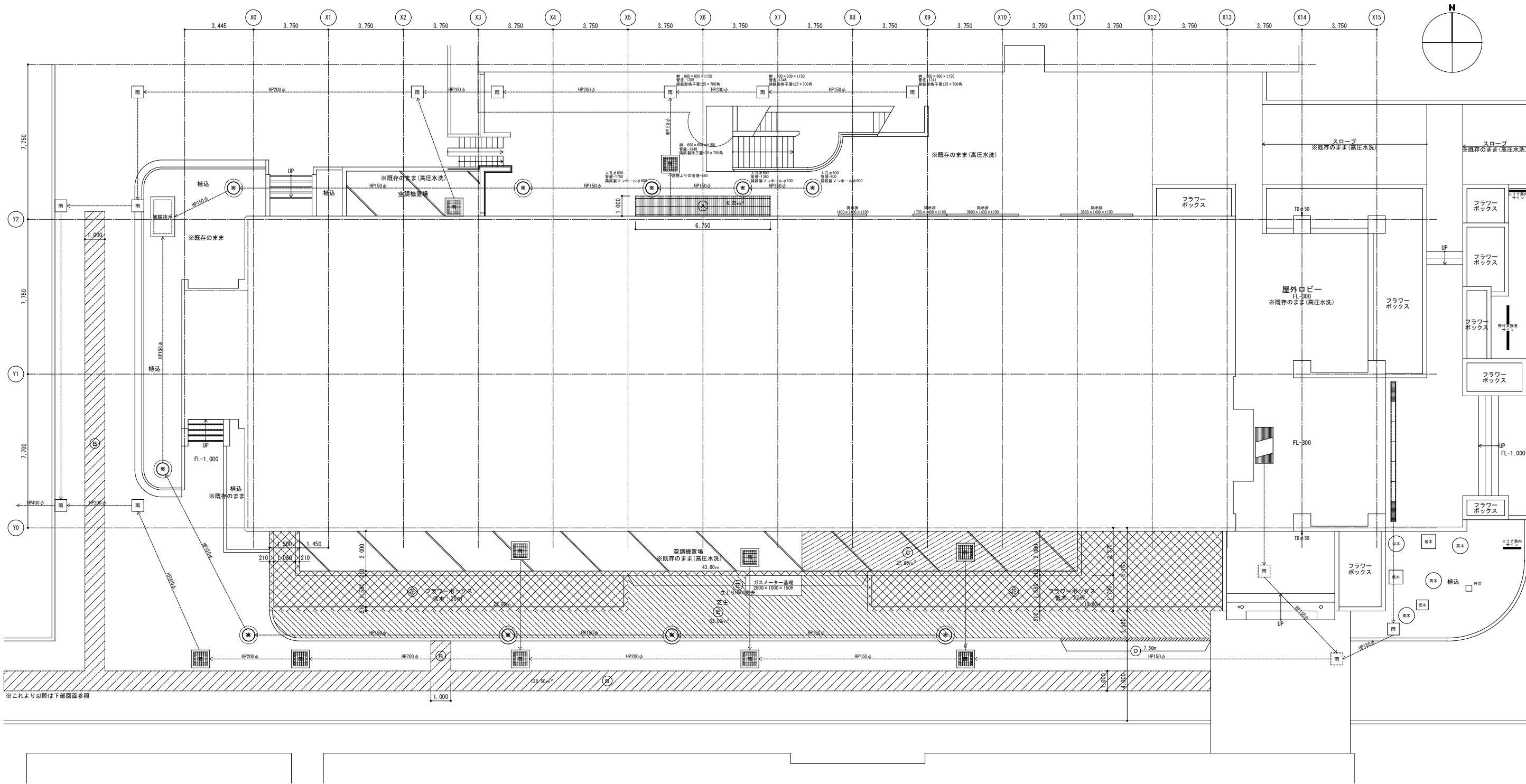
改修後 屋上・PH階平面図



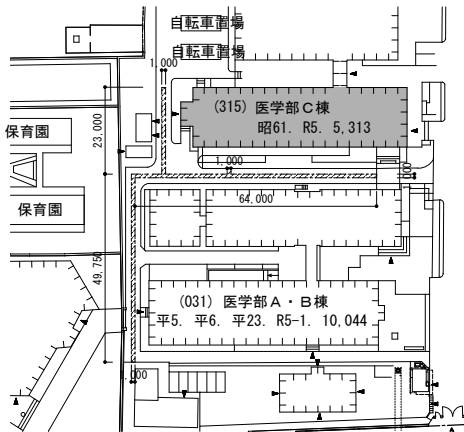
改修凡例

- RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
- 改修範囲を示す。
- 部分改修範囲を示す。
- の範囲は工事範囲外を示す。
- 間仕切壁、部分 新設範囲を示す。
(L Oは壁種別を示す。)
- 新設建具を示す。
(※はガラス種別、Oは枠見込を示す。)
- ※特記なきは建具表による。
- 既存建具改修を示す。
- 点線は、別途工事を示す。
- ※手洗い・洗面器等衛生陶器新設は機械設備工事とする。
(排水コア抜き共)

工事名		京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）等改修その他電気設備工事		図面番号
図面名称		縮尺	設計日	
屋上階平面図（改修前後）		A1:1/100 A3:1/200	令和8年7月	



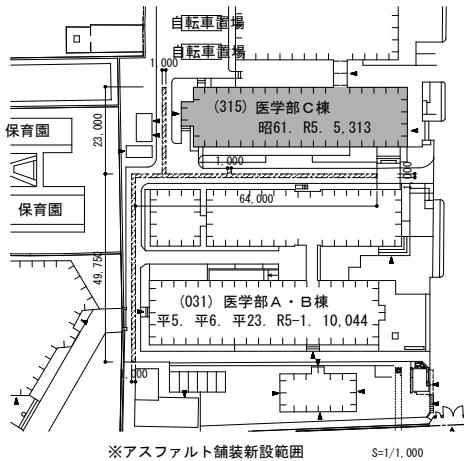
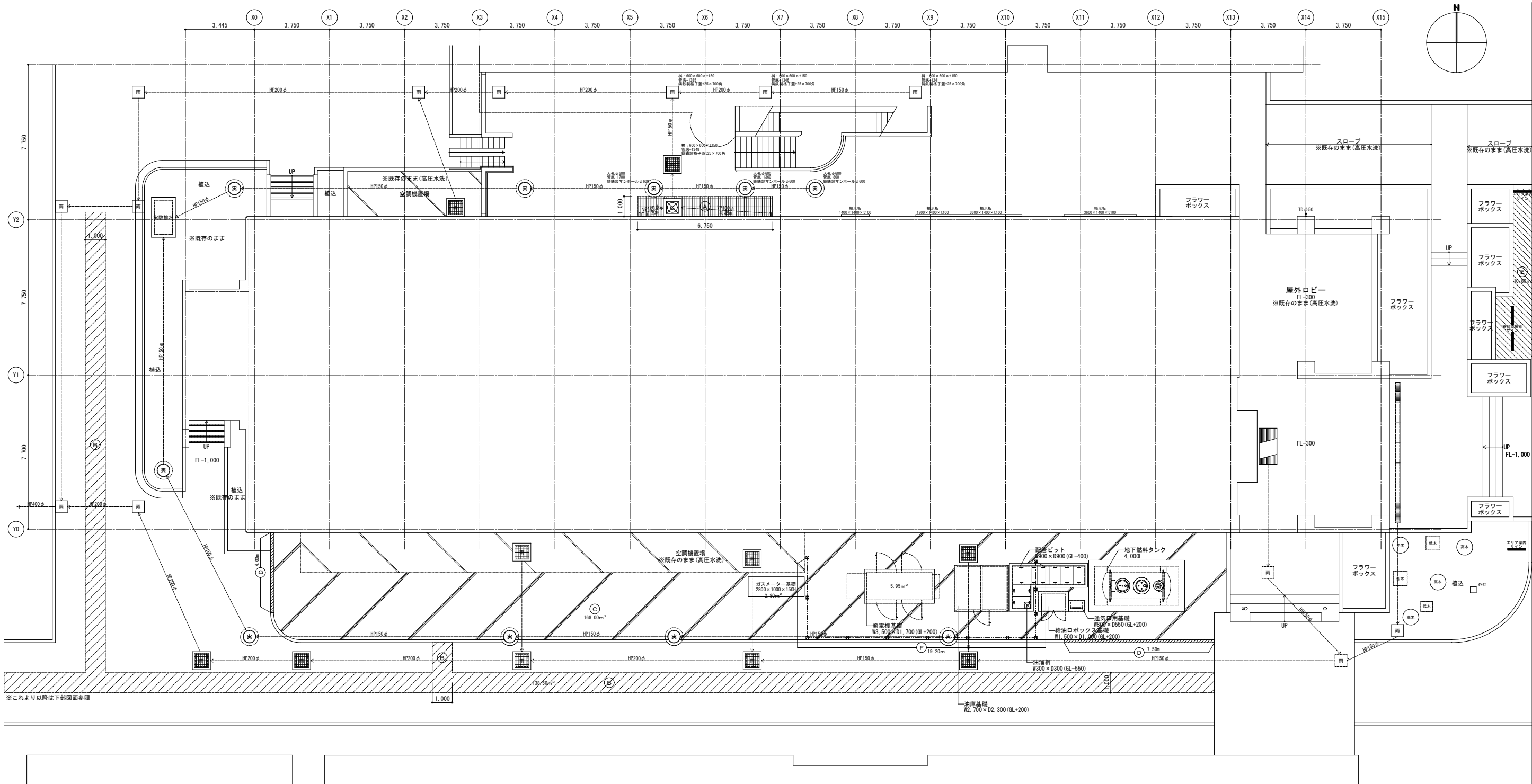
※これより以降は下部図面参照



※アスファルト舗装撤去範囲 S=1/1,000

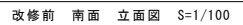
撤去凡例 ※屋外ロビー等は高圧水洗とする。			
記号	名 称	備考	参考数量
	せっき質レンガタイル張り撤去 (長手張り)	t=50+土間スラブt=150	6.75㎡
	アスファルト舗装撤去	t=50	138.50㎡
	土間コンクリート撤去	t=150	27.60㎡
	縁石撤去	地先境界ブロック:150×150×600	7.50m
	芝生撤去		82.00㎡
	フラワーボックス撤去	立上り: H=500×D210 低木ツツジ類: H=1.0 (5株/㎡) (浅根・浅根)	87.02m 62.00㎡

工事名		図面番号	
京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）等改修その他電気設備工事			
図面名称		縮尺	設計日
外構平面図（改修前）		A1:1/100 A3:1/200	令和8年7月



凡例 ※屋外ロビー等は高圧水洗とする。			
記号	名 称	備考	参考数量
	せっき質レンガタイル張り新設 (長手張り)	t=50+土間スラブt=150	6.26㎡
	アスファルト舗装新設	t=50	138.50㎡
	土間コンクリート新設	t=150	168.00㎡
	縁石新設	地先境界ブロック:150×150×600	11.50m
	芝生新設	ベタ張:コウライシバ	10.80㎡
	メッシュフェンス新設	H=1800(ベースプレート共)	19.20m
	雨水樹新設	600×600(鉄製格子蓋共)	1ヶ所

工事名 京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）等改修その他電気設備工事			図面番号 10
図面名称 外構平面図（改修後）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	設計日 令和8年7月	



コンクリート面：屋外階段内側及びPH階北面、東面一部 集計表（参考数量）

名 称	仕様・形状	数量	南面	北面	西面	東面	合計
欠損 (㎡)	充填工法	m数	0.2 ㎡	0.2 ㎡	0.2 ㎡	0.5 ㎡	1.1 ㎡
ひび割れ	Uカットシーリング材 充填工法	m数	3.0 m	3.0 m	5.0 m	5.0 m	16.0 m

※「外部足場設置後、外壁面の事前調査（目視や打診による確認作業、マーキング、計測、図面記入）を行うこと」

 : の範囲は工事範囲外を示す。

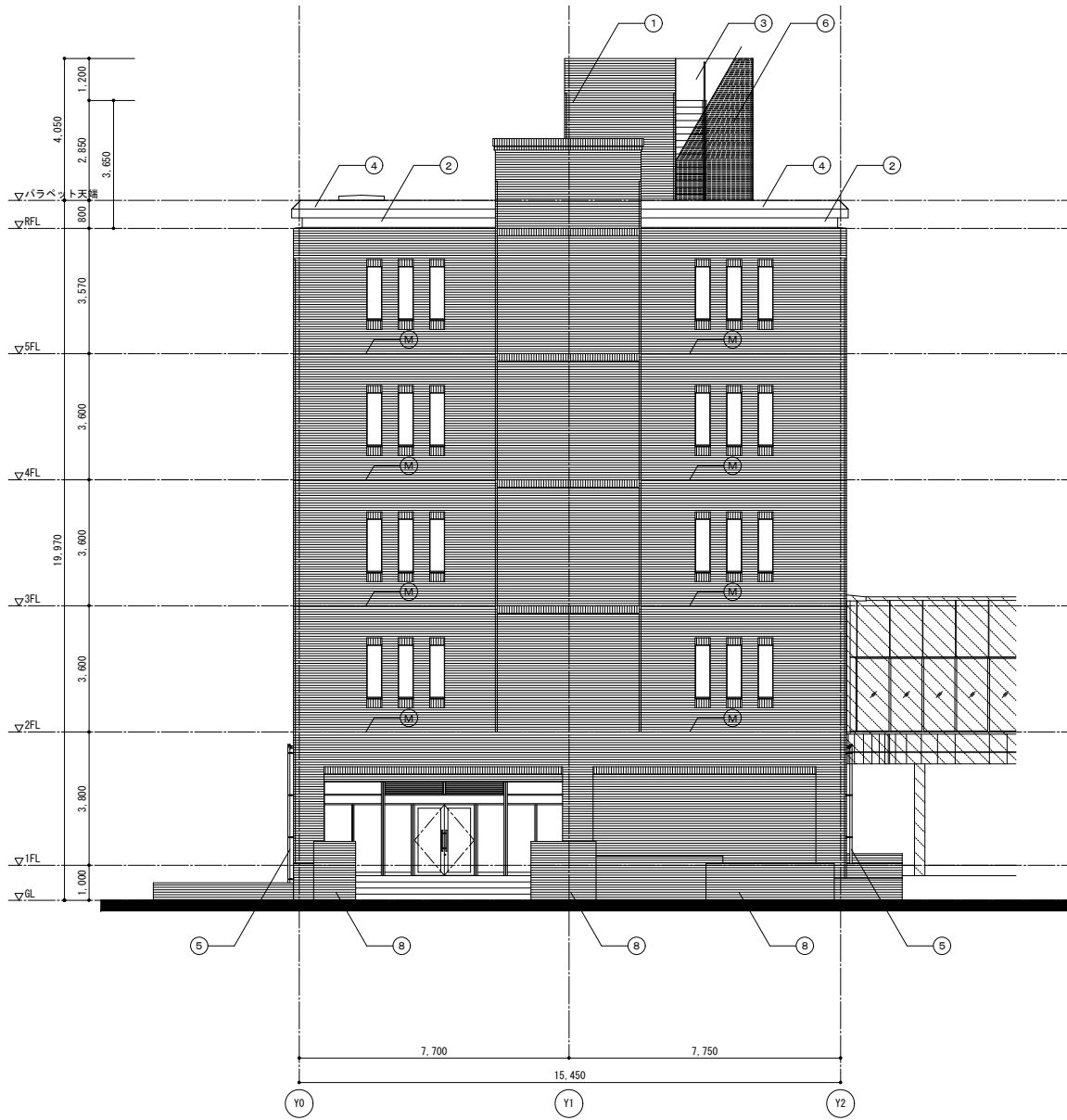
11



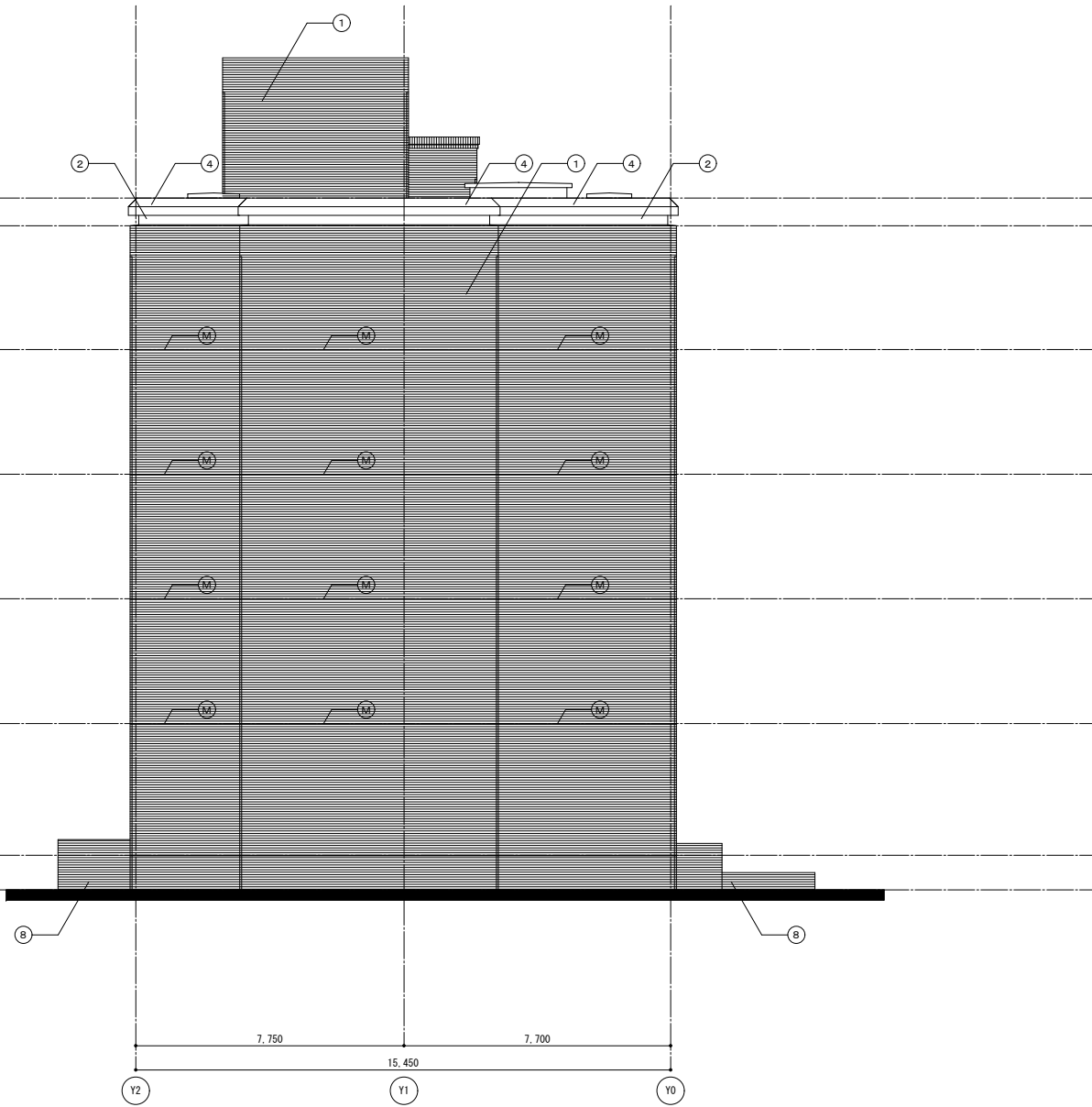
改修前 北面 立面図 S=1/100

記号	改修前 仕上凡例	改修後 仕上凡例	記号	改修前 仕上凡例	改修後 仕上凡例
①	せつ器質レンガタイル張り	高圧水洗、コンクリート含浸防水材塗布	⑥	屋上目隠し：L-30×30×3 F E	鉄部はすべて、DP塗替
②	コンクリート打放しの上、アクリルクリヤー吹付	高圧水洗、下地調整の上、フッ素樹脂吹付	⑦	屋外階段目隠し：FB-32×4.5 デュラクロン焼付	鉄部はすべて、DP塗替
③	コンクリート打放しの上、複層塗材 E	高圧水洗、下地調整の上、複層塗材 E	⑧	フラワーボックス：せつ器質レンガタイル張り	高圧水洗
④	ボンデ鋼板t=2.3加工デュラクロン焼付	既存のまま、美装	M	伸縮目地：ポリサルファイドシーリング20×10	シーリング撤去・新設
⑤	壁紙：SGP φ50 SOP (編み金物：φ1.200内外)	DP塗替	▼	「非常用進入口に代わる窓」の標示	標示シール撤去・新設

工事名 京都大学〈南部〉総合研究棟（医学部C棟）等改修その他電気設備工事		図面番号	
図面名称 立面図(2)（改修前後）	縮尺	設計日	
	A1:1/100 A3:1/200	令和8年7月	



改修前 東面 立面図 S=1/100



改修前 東面 立面図 S=1/100

記号	改修前 仕上凡例	改修後 仕上凡例	記号	改修前 仕上凡例	改修後 仕上凡例
①	せつ器質レンガタイル張り	高圧水洗、コンクリート含浸防水材塗布	⑥	屋上目隠し：L-30×30×3 F E	鉄部はすべて、DP塗装
②	コンクリート打放しの上、アクリルクリヤー吹付	高圧水洗、下地調整の上、フッ素樹脂吹付	⑦	屋外階段目隠し：FB-32×4.5 デュラクロン焼付	鉄部はすべて、DP塗装
③	コンクリート打放しの上、複層塗材E	高圧水洗、下地調整の上、複層塗材E	⑧	フラワーボックス：せつ器質レンガタイル張り	高圧水洗
④	ボンデ鋼板t=2.3加工デュラクロン焼付	既存のまま、美装	(M)	伸縮目地：ポリサルファイドシーリング20×10	シーリング撤去・新設
⑤	壁樋：SGPPφ50 SOP(極み金物：φ1,200内外)	DP塗装	▼	「非常用進入口に代わる窓」の標示	標示シール撤去・新設

工事名 京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）等改修その他電気設備工事			図面番号 13
図面名称 立面図(3)（改修前後）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	設計日 令和8年7月	